



# Executive Interview

エグゼクティブ  
インタビュー

no. 11

このコーナーは神奈川トヨタのお客様である経営者の方にお話を伺うコーナーです。

三田エンジニアリング株式会社  
代表取締役社長

## 千野 宗明 様

1973年創立、ビルディングオートメーション・システムの計装工事など関東はもとより、大阪、中国地方などで確かな技術と信頼で成長を続ける三田エンジニアリング株式会社。代表取締役社長千野宗明氏に、一昨年5月に40周年を迎えた思いと今後の展望などを伺いました。

### ■ 自由闊達な企業を目指し創業

#### ——1973年（昭和48年）創業ということですが、創業のきっかけは？

大学を卒業してまずは大手企業に就職しました。純粋に会社に貢献し、将来は部長、役員、いずれは社長にまでという意気込みでした。当時は労働組合が非常に強く、毎年賃金闘争や、待遇改善だとか、諸々の要求を経営者に突き付け、経営者が妥協しない場合には、ストライキをするという予想もしていない出来事があり、会社とはそんなものではないのではという思いがありました。一方、経営側も若者の純粋な意見を受け入れる社風ではなく、頑張れば頑張るほど組合や上司とぶつかり、徐々にモチベーションが下がっていきました。そうしていくうちに、自分が思いどおりにできる会社を作ろうという気持ちになりました。自由闊達で風通しのいい会社が世の中の一つくらい

あってもいいのではないかと思ったのです。入社した企業は待遇とか金銭面では、労働組合が強かったせいもあり、親がびっくりするくらいの賞与だったこともありました。26才で結婚をして子どももいましたが、一大決心をし大手企業を退職する道を選びました。その後しばらく大分の妻の実家で家業を手伝い、英気を養い東京に戻ってから、前職で知り合った工務店の社長の勧めで会社を立ち上げました。この出会いでは後々大変な思いをすることにもなりましたが…。

#### ——今の業種に何か思い入れがあったのですか？

私は専門性だとか特にこういうことをしたいというものはなかったんです。個性的というよりも、広く浅くという方が私は好きだったんですよ。強いてあげれば、大学で工学部の管理工学科に学んだことと、前職で自動制御機の



メーカーの生産管理課という部署に配属されたこと。そのお陰で起業に際し、業種に縛られることがなかったと思います。

昭和50年に入った頃、超高層ビルの建設があちこちで始まり、それと同時にコンピューター、デジタル機器を導入したビルディングオートメーションシステムが施設され始め、専門技術会社の必要性が高まって来たのです。しかし、創業はしたものの将来を考える余裕はありませんでした。



# 企業理念を社員と共有、 自由闊達な100年企業へ

## ■ 人材確保が最も苦勞しました

### —— 経済状況や時代の変化にはどのように対応されてきましたか？

マクロの経済というのは、中小の業界にはあまり大きな影響はありません。私は経済などに混乱が生じる〇〇ショックと言われるものを、何でもプラスに捉えてきました。我々のような中小企業は資金繰りも大変でしたが、求人が一番大変でした。人が来ない、来てもいい加減な人間が多く3日や1週間で辞める、昼と夜が逆転しているような人間も採用せざるを得ない。これが高度成長期の一番の辛さでした。バブルが崩壊した後、社会の目が大企業重視から中小企業に向くようになり、人材にも恵まれるようになりました。現在の幹部社員は、ほとんどバブル崩壊後入社した人達ですね。

## ■ 社員との強い信頼関係が良い仕事の源

### —— 100名を超える社員の皆さんに社長の思いを伝えるために、どのようにされてきましたか？

会社発足当時から今も変わらない、「自由闊達、風通しのいい会社を目指す」という私の経営理念、あるいは経営哲学と言いますか、これを社員に伝え、浸透させることが大事だと思っています。私は、経営者と社員との信頼関係、これが人材育成につながると考えています。また、それがスタートではないかなと10年前くらいから気付きました。経営をする上で最も優先して考えるものは何だろうか？ 私は考えた末、その答え

は「社員の日々の充実感、幸福感」だと悟りました。社員とその家族を幸せにすることが第一だと考え、社員や外部の方にも自信を持って言えるようになりました。社員も、自分のことを大事にしてくれるのであれば、自分の仕事を大事にする、そしてお客様も大事にする。一つ一つの物事に対して慎重にやる。社員が100人以上になってくると社員の一挙一動の全てを見られないわけで、やはり社員を信頼するしかない。私が社員との信頼関係を作れば、社員も努力をするし、いい仕事もしてくれるのではないかと思います。これが社員育成の原点ではないかと思います。

### —— 今後の目標を教えてください。

昨年の春先に、あと2年現役の社長をやるけれど、その後は会長や相談役で2歩、3歩退くと社員に言っています。今いる生え抜きの幹部社員にバトンタッチしていきたいと思っています。口で言うのはやさしいのですが、やはり社長というのは特殊な職業で、企業まるごと全責任を体を張って守らなくてははいけない。私が40年間培った経営の辛さや難しさとか、喜びも多少ありますが、2年間で次世代に「経営とは？」を伝えていきたいと考えています。

そして100年企業を目指したい。私どもは企業経営を40年は経験しましたが、純血で40年間企業経営がなされていると

いうのは統計的には7%なんです。100社のうち93社が、倒産するか身売りをするか合併するかで、本来の会社の文化や伝統、個性みたいなものがなくなってしまっています。これが100年になると統計的な確率では0.2%なんです。純血で三田エンジニアリングの経営哲学・理念を100年続けるということは、そういう難しいチャレンジなんですけど、それにあえて挑戦していこうかと思っています。また次世代もそういう気持ちでやってほしい。他の会社にはない経営理念を貫き通して生き残る。これが言い換えると社員を守る、社員を大切にすることにつながるのはないかと考えています。

昨年からはじめましたがもう一つは女子パワーの活用です。私たちの業界はがぜん男社会の仕事の分野なんですけど、男ばかりの会社は不健康で、やはり一定のバランスで男女が一緒にいる方がいい。女性のきめ細かいものの見方など、男性にはない優れた点がたくさんあります。その素晴らしさを活用しない手はないということで、積極的に今後も採用し、女性が安心して働ける環境づくりを整え、将来的にはどこかの営業所長や技術系の部長などに女性を登用するような会社になってもらいたいと思っています。

### <インタビューを終えて>

インタビューの後、社員の方々とお話する時間をいただき、社長の思いはしっかり受け継がれていることが伝わりました。会社の現状を社長からだけではなく社員からも汲みとってほしいという思いはもちろん、自慢の社員の方々と私どもにお披露目したかったのでは？と、社員への信頼と愛情を感じ暖かい気持ちになりました。

## 三田エンジニアリング株式会社

東京本社：東京都港区芝浦3-6-4 第2協栄ビル  
TEL：03-3454-3611 FAX：03-3451-3255  
URL <http://www.mitaeng.co.jp/>